Collection and Classification of Episodes of "Mounting" or Claiming Dominance Behaviors: Invisible Hierarchy Competition and Women's Distress
2021 Vol.23 p.23 - p.36

マウンティングエピソードの収集とその分類

：隠蔽された格付け争いと女性の傷つき

森　裕子　お茶の水女子大学大学院　人間文化創成科学研究科
石丸　径一郎　お茶の水女子大学基幹研究院

要約

マウンティングとは，女性同士の関係性の中で「自分の方が立場が上」であると思いたいために，言葉や態度で自分の優位性を誇示してしまう現象（瀧波・犬山，2014）を指し，近年注目されている現象である。本研究では，書籍やテレビドラマからマウンティングに該当するエピソードを収集し，修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを援用して分類を行った。その結果，20 の概念が生成され，＜伝統的な女性としての地位・能力を誇示する＞＜人間としての地位・能力を誇示する＞＜女性としての性的魅力を誇示する＞の 3 つの上位カテゴリーにまとめられた。これら 3 つのカテゴリーは，ある部分では一方に勝てるが，ある部分では負けるという，膠着した三すくみの状態にあると考えられ，女性のあいだでみられるマウンティングは，優劣を決定することができず，繰り返されてしまうといえる。今後は，因子分析など量的方法を用いて分類の妥当性を確認する，マウンティングの強さを測る尺度を作成することなどが期待される。

キー・ワード：マウンティング，女性，格付け，ストレス

Ⅰ　問題と目的

1. 近年注目されるマウンティング

"男同士は本来無関心なものだが，女は生まれつき敵同士である"（Schopenhauer, 1952 / 1968）という言葉があるが，その真偽はさておき，女性同士の対立は人々の関心を集め，テレビドラマや映画のテーマとして扱われることがある。一方で，心理学領域において，女性同士の対立を扱った研究は少ない。社会学では妙木（2009）が，わが国における1950年代から2000年代にかけての女性の対立について整理しているが，妙木（2009）が言及している対立は，いずれも社会的なマクロな対立であり，日常的な場面で起こるミクロな対立や，女性たちがそうした対立によって受ける心理的な影響については検討されていない。

身近な女性同士のあいだでみられる対立について，対談を通して検討した瀧波・犬山（2014）は，女性同士の関係性の中で「自分の方が立場が上」であると思いたいために，言葉や態度で自分の優位性を誇示してしまう現象をマウンティングと定義している。マウンティングとは本来，サルがほかのサルの尻に乗り，交尾の姿勢をとるなど，動物社会における順序確認行為を指す（大辞林，2019）。女性同士のあいだでみられる対立についてマウンティングという言葉を用いたのは，瀧波・犬山（2014）が最初とされ，Google における単語の検索回数を調べる Google Trends でも，マウンティングの検索回数は 2014 年 4 月頃から急増しており，近年注目されている現象である。

2. マウンティングと類似する概念

マウンティングは，女性同士の対立を表す比較的新しい概念であるが，瀧波・犬山（2014）が用いる以前は，どのような類似概念で表現されていたのだろうか。例えば，白河（2013）では，女性集団において，その集団にしか通じない基準でお互いを暗黙のうちに格付けしあい，その序列の認識と共有が行われる状態を指して，女子カーストと表現されている。富山（2011）は，少女マンガの考察の中で，自分の方が立場が上であることを誇示する女性の言動を指して「女性同士の格付けが行われている」と表現している。このような女子カーストや格は，女性たちが置かれている状態を指す言葉である一方で，マウンティングは，そうしたカーストや格を決定づけるための女性による行動を表しているのではないだろうか。女性のあいだにおけるカーストや格を決定する要因としては，職種・雇用形態・婚姻状況・子どもの有無（鈴木，2015；白河，2013）などが考えられ，多様かつ複雑であり，単純に優劣を決定することができない。そこで女性たちは，マウンティングを行うことで，自分の位置や幸福を確認したい欲求（白河，2013）を満たそうと試みている可能性が考えられる。

3. マウンティングの特徴

瀧波・犬山（2014）では，次のようなマウンティングの例があげられている。

（独身の A 子が学生の頃から付き合いがあり，親友の B 子と，B 子の結婚について話している場面）
A 子：B 子，話聞かせて。そーだ，指輪は？
B 子：やーん，安物だよ。一応…テ●ファニー。
A 子：いーなーって思ってた時もあったなー。今はカルテ●エ派だけど！！
B 子：［モヤっとした気持ちになる］へえ…？
［中略］
（その夜，それぞれの自宅に帰ってから）
A 子：あーもー…なんであんなふうになっちゃったんだろー！？自分のバカ…！！
B 子：あーもー…なんであんなふうになっちゃったんだろー！？ふつーにノロケたかったよー！
（原文はマンガ。伏せ字は原文ママ）

この例から，マウンティングについて次のような特徴が考えられる。1 つ目は，ある程度交流のある女性同士のあいだで発生するという点である。これは，マウンティングが相手より上に立ちたいという動機から行われるため，ある程度関係性が構築された女性同士の中で生じやすく，その場限りの関係性の中ではマウンティングを行う必要性がないためであると考えられる。瀧波・犬山（2014）では，サークルに入る際の自己紹介場面におけるマウンティングについても考察されており，初対面ではあるが，今後もその集団の中で関係性が続いていくことが予想される場面では，マウンティングが生じる可能性が高いことが分かる。つまり，マウンティングは，日常的に関係性が構築されている，あるいはこれから関係が続くことが予想される女性同士で生じる特徴があると考えられる。

2 つ目は，一方の女性が「自分の方が立場が上である・優れている」と暗示的にもう一方の女性に誇示するという点である。先ほどの例では，テ●ファニーの指輪をつけ喜んでいる B 子に対し，A 子は「いーなーと思っていた時もあった」と発言し，テ●ファニーに価値を認めていた時もあったが，現在は認めていないと伝えることで，B 子よりも自身の方が前のレベルを卒業して，よりステイタスの高い価値観を持っていることを示しつつ，テ●ファニーの指輪の価値やそれを喜ぶ B 子の価値観を低めていることが分かる。このようにマウンティングは，婉曲的な表現を用いて行われる点が特徴的であり，そのために当事者以外にはマウンティングであると感じられない可能性が考えられる。

3つ目は，マウンティングをされた方の女性は，自分の方が立場が下であると感じ，不快な気持ちになるという点である。先ほどの例でも，B子はA子の言動を受けてモヤっとした気持ちになっており，A子によって自身の指輪や自身の価値観が下位に位置づけられたことを感じ，不快な気持ちになっていることが分かる。しかし，その不快な気持ちがその場や自宅に帰ってからも表現されることはない。これは，後述するマウンティングの加害性が見えにくく，その場の雰囲気が友好的なままであり，不快な気持ちになっても取り繕う必要があるためや，マウンティングによるダメージは確実に存在するが，重大なものではないために，漠然としか把握できないためであると考えられる。マウンティングされることによって生じる不快な気持ちは，他者から見えにくく，本人にも明確には把握できないものである可能性が高い。

4つ目は，マウンティングを行っている側に加害意識がないことが多いという点である。先ほどの例の会話では，A子はB子の指輪の価値やそれを喜ぶB子の価値観を下位に位置づけているようにみえ，またB子もそう感じている。しかし，A子は自宅に帰ってから「なんであんな風になっちゃったんだろー」と発言しており，相手を貶めてやろうという加害意識が乏しく，自身でもなぜマウンティングをしたのか分かっていない様子である。一方，瀧波・犬山（2014）では，相手を貶めてやろうという加害意識があるものの，発言内容は善意に基づくアドバイスや心配であり，加害意識が隠蔽されている例があげられている。このことから，マウンティングでは，マウンティングを行う加害者にも，なぜマウンティングをしたのか分からず加害意識がない場合や，加害意識があるもののそれが隠蔽されている場合があることが特徴的であると考えられる。

以上の4つの特徴から，本研究ではマウンティングを，次の4条件を満たすものと定義する（表1）。

表1　マウンティングの4条件

条件	内容
第1条件	日常的に関係性が構築されている，あるいはこれから関係が続くことが予想される女性同士で生じる
第2条件	参与者Aが「自分の方が立場が上である・優れている」と参与者Bに暗示的に誇示する
第3条件	参与者Bが参与者Aの言動を受けて，自分の方が立場が下であると感じ，不快な気持ちになる
第4条件	参与者Aは加害意識がない，あるいは加害意識がなさそうにみえる

これら4条件を満たすマウンティングは，女性たちの日常生活の中で発生する身近な現象であり，マウンティングを受けて漠然と不快な気持ちになるものの，その場の雰囲気を友好的に保つ必要があるために，不快な気持ちを見せないように振る舞うなど，配慮や気疲れを伴う煩わしい作業が求められる。このような日常の中で起こる慢性的な煩わしい出来事は，デイリーハッスル（daily hassle）と呼ばれ（lazarus & Folkman，1984），うつ病（McIntosh, Gillanders & Rodgers, 2010）や摂食障害（Janis, Jennifer, Deanne, & Kristen, 2001）との関連が示されている。つまり，マウンティングによるダメージは一見小さいものの，日常的に遭遇し，小さなダメージが積み重なることで，心身の健康を損ねるリスクが高まるといえる（外山・桜井，1999など）。女性同士のあいだでみられるマウンティングに注目することで，女性の精神的健康の増進に寄与できると考えられるが，マウンティングに該当する具体的な行為やそれらの分類について，十分な検討はなされていない。そこで本研究では，書籍やテレビドラマを対象とし，マウンティングに該当する行為を収集・分類することを目的とする。

Ⅱ　方法

1. 調査対象

書籍については，国立国会図書館や全国の公共・大学・専門図書館等が提供する資料を検索できる「NDLサーチ」を用いて「マウンティング」

表2　調査対象とした作品

作品種別	タイトル	著者／製作者	出版年／放送時期
書籍	女は笑顔で殴りあう：マウンティング女子の実態	瀧波・犬山	2014
	すべてを手に入れたってしあわせなわけじゃない	鈴木	2019
	女のお悩み動物園	ジェーン・スー	2020
	自分を傷つけずに不毛なマウンティングをかわす力	水希	2020
	格付けしあう女たち	白河	2013
	女子の人間関係	水島	2015
ドラマ	ファースト・クラス（第1期，第2期）	フジテレビ	2014
	「大奥」シリーズ	フジテレビ	2003，2004，2005，2006，2019
リアリティーショー	バチェラー・ジャパン（1，2，3）	Amazon	2017，2018，2019

をキーワードとし検索した。マウンティングを女性同士の争いについて用いるようになったのは近年のため，「格付け」も合わせてキーワードとし，検索した。そのうち，動物における順序確認行為を指す言葉としてマウンティングを用いている資料等を除外し，表2に示す5冊の資料を対象とした。テレビドラマ等については，研究者間で協議を行い，表2に示すテレビドラマ等を対象とした。

2. 分析の方法

本研究では，修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（以下，M-GTA）（木下，2003）を援用し分析を行う。M-GTA は，質的研究法の中で広く用いられており，データの継続的な比較分析によって概念を生み出していく手法である。本研究では，次の手順によって分析を行う。

1）データ全体の把握

表2に示した調査対象のから，表1に示したマウンティングの条件に合致するエピソードを抽出した。なお本研究では，マウンティングに関するエピソードを幅広く抽出するために，4 条件のうち少なくとも3条件に合致するものを対象とした。

2）継続的比較分析と概念の生成

次に，類似したいくつかのデータを繰り返し比較分析し，関連性のありそうなデータを分析ワークシートに並べ，共通する体験を浮かび上がらせていった。データに根差した分かりやすい表現を工夫し，概念名をつけ，その定義をまとめた。ある概念に対し，反対例や類似例がないかを検討することで，別の概念を生成したり既にあった概念へとまとめるなどした。

3）カテゴリーの生成

概念がいくつか生成されると，それらの概念同士の関係についても検討し，概念をまとめるカテゴリーを生成した。上位のカテゴリーが生成されてから，下位の概念を再構成するというように，2）と 3）の手順を何度か往復した。

こうして 20 個の概念が生み出された。概念の生成と同時に，概念同士の関係についても検討すると，高林・沼崎・小野・石井（2006）が指摘する，「伝統的な女性」，「非伝統的な女性」，「性的対象としての女性」という女性ステレオタイプの 3 つのサブタイプに大きく分離できそうなことが分かってきた。そこで，高林他（2006）のサブタイプを参考に，＜伝統的な女性としての地位・能力を誇示する＞＜人間としての地位・能力を誇示する＞＜女性としての性的魅力を誇示する＞という 3 つの上位カテゴリーを生成した。上位カテゴリーと各概念，その例を表3に示す。

Ⅲ　結果

以下に，それぞれのカテゴリーと概念について，具体例をあげながら説明する。

1. ＜伝統的な女性としての地位・能力を誇示する＞

表3　生成された概念とその例

カテゴリー	概念名	例（要約）
伝統的な女性としての地位・能力を誇示する	貞淑さ	飲み会でおしゃれをする女性たちに「今日は気合入ってますね」という 産後すぐに仕事復帰する女性に「子どもが3歳まではそばにいた方がいい」
	既婚の安定	独身の友人に「イケメンを紹介するよ～」と言う 結婚したいのにできない友人に「いいんじゃない、独身の星って感じで」
	夫・彼氏の存在	「イヤになったらいつでも仕事やめていい、と彼氏が言ってくれる」と誇る 「夫が家にいてほしいという」と飲み会を断る
	子どもの存在	恋愛の悩みを相談すると「子どもを育ててると毎日が忙しくて、ちっちゃなことで悩んでるヒマはないかな～」と言われる 子どもを産んでいないと「縛られることがなくてうらやましい」と言われる
	年の功	年下女性に対し「あなたたち、キャーキャーしてられるのも今のうちよ」と言う 「こんなこと言うのもなんだけど、幸薄そうよね」と決めつける
	実家資源	高級ブランドバッグを身につけ「ママの借りて来ちゃって」と言う 権力者の父の人脈を誇る
自立した人間としての地位・能力を誇示する	キャリア	非正規雇用の女性に「いいな、頑張りが報われる人は。正社員はいくら頑張っても、お給料が変わらないんですよ」という。 主婦の女性に「主婦なんて、いいご身分だよね」という
	学歴	主婦に対し「主婦なんて中卒でもなれる」と言う 学歴がない女性に対し「男の金で生きてくの？つまんない人生」という
	仕事の有能さ	自分が仕事で目標を達成したと言うと「私もこの前、同期で一番のりでプレゼン担当になったんだ」と言われる ミスした女性社員に「まだ仕事始めたばっかりなんだし、しょうがないですよ～」
	苦労	子どものお迎えを親に頼むと「やっぱり実家近いの超得だよね～」と言う 時短勤務の先輩に「会社のお荷物、権利だからのうのうとして」と言う
	経済力	高級時計を見せながら「これすごく安く買ったんだけど」 家を購入した友人に「ローン払っていくの大変だよね～」
	独身の自由	既婚の友人に「独身生活を謳歌しまくってま～す」と言う 「妊娠するといろんなものが食べられなくなるから大変だね」と言う
	海外経験	「バックパッカーの経験があって視野が広がった」と誇る 観光客が滅多に行かない海外の地位での経験を誇る
	居住地	地元に帰った時に「こんなオシャレな店ができたんだね」と感心したようにいう 都会に住んでいるというと「怖い」と言われる
	趣味・教養	テレビドラマがおもしろかった話をすると「テレビを見る時間に意味を見いだせない」と言われる 寿司屋で「お寿司、トロから頼んじゃうんだ」と言われる
女性としての性的魅力を誇示する	美しさ	「みんなメイク盛ってるね～！」とすっぴんの女性が言う 色白女性に「あんまり白すぎると年取った時に大変らしいよね」と言う
	ファッションセンス	「素材はいいのにもったいない！」とメイクや服装に口を出す 「カワイイ系のおしゃれをした方がモテる」と服装やメイクを強要
	若さ	お説教をしてくる年上女性に「年を取れば分かるのかなー」と返す アラサー女性に「30過ぎての婚活はイタい」と言う
	モテ経験	男性に声をかけられることを話し「軽く見られてるのかなー」 性交経験があることをもって「処女なんて後生大事にもってるもんでもないよ」と誇る
	男のセンス	「彼氏、イケメンじゃないところが逆にいいね」と言う 「私の旦那の方が稼ぎがあるし」と誇る

＜伝統的な女性としての地位・能力を誇示する＞には，主婦や母親に代表される，伝統的な女性役割に該当する概念やエピソードが含まれる。伝統的な女性役割とは，仕事よりも結婚や出産・育児を重んじる態度（鈴木，1994a など）や，優しく上品で，従順な態度（高井・岡野，2009；伊藤，1978 など）を表す。内閣府の調査では，伝統的な女性役割に賛成する人の割合は年々減少している（内閣府，2019）ものの，一方で成人男女における家事労働時間では，男性よりも女性が長い（渡辺，2016）など，女性が家庭役割の多くを担っており，現在でも依然として求められている女性像であるといえる。

また，結婚に際して両家の家族間で結納などの儀式があることや，「嫁ぐ」，「嫁に行く」という言葉にあるように，伝統的な女性役割における女性は，家の所有物や財であるかのように語られることが多い。そのため，女性の原家族や出身といった出自によって，女性の価値が決定される側面もあり，女性のみの力によって変えることは難しく，固定的なものであるといえる。

＜伝統的な女性としての地位・能力を誇示する

＞では，保守的で，女性のみの力では変えられない地位や能力によって，様々なマウンティングがみられる。

1）貞淑さ

＜伝統的な女性としての地位・能力を誇示する＞で最もよくみられるものが，「貞淑さ」によるマウンティングであり，次のような例があげられる。

（飲み会の場でいつもとは違う服装をしている私を見た後輩が）
後輩：「今日は気合入ってますね～」（瀧波・犬山，2014）

いつもと違う服装をしている「私」に対し，後輩は「気合が入っている」と言及しているが，それを受けて「私」は飛んで帰って T シャツに着替えたくなるなど，いたたまれない気持ちになっている。後輩は，いつもと異なる服装で過度に性的魅力をアピールしている「私」はふしだらな女であり，アピールしていない自分は貞淑であるとみせかけ，優位性を誇っているといえる。このように，「貞淑さ」は，相手より女性らしいしとやかさ，控え目な雰囲気をもっていることをもって，優位性を誇るといった内容がある。

2）既婚の安定

貞淑である伝統的な女性にとって，結婚は大きなライフステージの変化であり，結婚によって生活の安定を得ることができる。「既婚の安定」では，次のような例があげられる。

（既婚の友人が独身の犬山さんに対して）
友人「犬山さん独身だから，イケメン紹介するから～」（瀧波・犬山，2014）

友人は独身の犬山を気遣い，イケメンを紹介すると言っているようにみえるが，それを受けて犬山はモヤモヤした気持ちになっている。犬山には，結婚を既に済ませた友人は上のステージにいるように見え，下のステージにいる犬山を憐れむ気持ちが感じられたからではないだろうか。このように，「既婚の安定」には，既婚でありライフステージが上であることをもって，独身の相手に優位性を誇るといった内容が含まれる。

3）夫・彼氏の存在

結婚をすることで，夫となる男性と生活を共にすることになり，生活の様々な場面で独身の頃とは違いが生まれる。例えば，次のような例である。

（新婚の友人が独身の私の「昨日の飲み会に来られなかったね」という発言を受けて）
友人：「そうだね～，夫が家にいてほしいっていうから。」
私「やーん，ラブラブだね！そっか～旦那さん，束縛する人なんだ～」（瀧波・犬山，2014）

友人は，夫が家にいて欲しいというので飲み会に行けなかったと語っているが，それを受けた「私」は明るく返答しつつも「クッ」と歯を食いしばっている。友人は事実を話しただけかもしれないが，「私」には夫の存在を引き合いに出し，幸せな生活を送っていることをもって，マウンティングをしていると受け取られたといえる。このように，「夫・彼氏の存在」は，夫や彼氏がいることをもって，夫や彼氏のいない相手に対し優位性を誇るといった内容がある。

4）子どもの存在

結婚というライフイベントの次には，妊娠や出産というライフイベントが控えていることが多い。「夫・彼氏の存在」と同じく，子どもがいることによるマウンティングもみられ，次のような例があげられる。

（独身の私が既婚・子持ちの友人に恋愛の悩みを話すと）
友人：「子どもを育ててると毎日が忙しくて，ちっちゃなことで悩んでるヒマはないかな～」（瀧波・

犬山，2014）

友人は，独身の「私」の悩みについて，子育てと比べると「ちっちゃなこと」と過小評価しており，これを受けて「私」は腹立たしい気持ちになっている。友人は，子育てという重大な仕事に取り組む自分は，些末なことで悩む「私」よりもステージが上であると誇り，マウンティングをしているといえる。このように，「子どもの存在」は，子どもを持つことによる苦労や大変さを強調する一方で，子どもがいることによる幸せを見せつけて，優位性を誇るといった内容がある。

5）年の功

結婚や妊娠・出産などのライフステージの変化を経験することで，自分なりの女としての処世術を身につけていく。こうした自分なりの処世術によるマウンティングもみられ，例えば，次のような例があげられる。

（見知らぬおばさんが若い子たちに向かって）
おばさん：「あなたたち，キャーキャーしてられるのも今のうちよ」（瀧波・犬山，2014）

おばさんは，「はしゃいでいられるのは今のうちだけ」と言うことで，若い女の子たちをたしなめているようにみえるが，女の子たちはそれを受けて，おばさんが鬱憤を晴らしたがっているだけのように感じている。おばさんは，騒いでいる若い女の子たちのことを女性としてのライフステージが下で未熟な存在であると認識し，自分の方が経験を積み，ライフステージも上の存在であると誇っているといえる。このように，「年の功」は，相手より年を重ね，ライフステージの変化を経験していることにより，優位性を誇るといった内容がある。

6）実家資源

伝統的な女性としての地位・能力として，結婚や妊娠・出産などライフステージに関わるものと，貞淑さという本人の資質に関わるものをみてきたが，本人の属性に関わる部分でもマウンティングがみられる。例えば，次のような例があげられる。

（木村が川島のバッグに目をとめ，厳しい顔に）
木村：「クロエの新作？」
川島：「ああ，ちょっとママの借りて来ちゃって」
（得意げな表情）（ファースト・クラス，2014）

川島は，木村に言及された高級ブランドの新作バッグは母親のものであると答え，得意げな表情をしている。それを受けて木村は，川島の前ではにこやかな表情をしているものの，自席に戻った途端に厳しい表情になっている。川島は，高級ブランドバッグが母のものであると言うことで，裕福な家庭でお嬢様として育ったことを暗に誇示しているといえる。このように，「実家資源」は，父や母などの経済力や人脈が豊富であることや，権力を有することをもって，相手に優位性を誇るといった内容がみられる。

2. ＜自立した人間としての地位・能力を誇示する＞

＜自立した人間としての地位・能力＞には，伝統的に男性役割とされた仕事や経済に関する内容が含まれる。伝統的な男性役割には，職業上の成功と達成や，肉体的・精神的強さと独立心，感情表出の制限，女々しくないことが含まれる（鈴木，1994b）。近年では，女性の社会進出が促進され，女性自身も仕事をし，高い地位を得ることを社会から期待されていると感じており（山根・別井・宮内，2018），伝統的に男性役割とされてきたものが，女性役割としても捉えられるようになったと考えられる。

また，＜自立した人間としての地位・能力を誇示する＞には，学歴やユーモアセンスなどに関する項目も含まれる。これは，伊藤（1978）のHumanity（人間性）に類似すると考えられる。

Humanityには，「明るい」「頭のよい」といった項目が含まれ，個人的評価においても，社会的評価においても高い価値が付与されている（伊藤，1978）。

よって，＜自立した人間としての地位・能力を誇示する＞に含まれるマウンティングには，伝統的な男性役割に関するものや，人間として望ましいとされるものが存在する。それゆえ，バリエーションが豊富であり，様々な観点からのマウンティングがみられる。

1）キャリア

人間としての地位・能力におけるマウンティングで最もよくみられるものが，「キャリア」によるマウンティングであり，次のような例があげられる。

（帰ろうとする正社員の川島を，契約社員の木村が呼び止める）
木村：「あれ，帰るの？」
川島：「だって，私，頑張ってもお給料変わらないんですよ？頑張りが評価される人ってうらやましいな～［中略］もちろん，契約だとダメなら首切られちゃうっていうリスクもあるだろうけど。それに比べて正社員って，ほんと頑張り損。いつ異動があるかも分からないし」
木村「やだ…（笑いながら）…おつかれさま（にこやかに）」（ファースト・クラス，2014）

正社員の川島は，自身の頑張りが正当に評価されないことを嘆き，頑張りが評価に反映される契約社員という立場の木村を羨ましがっている。これを木村はにこやかに聞いているが，去っていく川島を厳しい表情でにらみつけている。川島も言及しているように，契約社員は正社員に比べて，退職金がない，福利厚生が充実していないなどのデメリットがあり，契約が打ち切られれば失業してしまうというリスクもある。川島は木村を「うらやましい」と発言しているが，正社員として働く方が生活が安定しメリットが大きく，契約社員の木村に，己の安定や余裕を誇示しているといえる。この例では，雇用形態をもって相手に優位性を誇っているが，「キャリア」には他にも勤続年数や，それらから得た経験をもって，相手に優位性を誇るといった内容が含まれる。

2）学歴

女性においても，学歴が高いほど市場賃金率が高く，学歴は雇用形態や職種に影響を与えていると考えられる。学歴におけるマウンティングでは，次のような例があげられる。

（高学歴ながらキャバクラで働く女性が，他の女性を指して）
高学歴女性：「ナンバーワンって言ったって，しょせんただのキャバクラ嬢じゃん。月に100万200万稼いだって，じゃあ10年後何してるの？そのまま結婚でもして男の金で生きてくの？つまんない人生」（鈴木，2019）

この例では，相手の反応は不明だが，高学歴女性は己の高学歴を自負し，自分は独力で生きていくことができる一方で，学歴がない他の女性にはそれができないと見下している。実際，配偶者の収入の影響を除くと，学歴が高いほど女性の就業率は高く（多喜，2019），女性の高学歴は，男性の収入に頼らず独力で生きていく力を高めるものであると考えられる。それゆえ，高学歴女性は，高い学歴をもってマウンティングをしていると考えられる。このように，「学歴」には，相手より学歴が高いことをもって，優位性を誇るといった内容が含まれる。

3）仕事の有能さ

「キャリア」では，職階や勤続年数など仕事に関する上下の軸での比較をもってマウンティングが行われたが，仕事の出来など横の軸での比較によるマウンティングもみられ，次のような例があげられる。

私：「契約３社目とれて，目標達成したよ～」
同期：「私もこの前，同期で一番のりでプレゼン担当になったんだ。そのときのプレゼンはね…」（ジェーン，2020）

「私」が自身の仕事が順調であることを伝えると，同期の女性社員が自身も成果を出したと説明しはじめている。これを受けて，「私」は「うれしいから報告しただけなのに，同期と張り合う気はないのに，疲れる」と感じている。「私」は仕事で目標を達成した喜びや嬉しさを同期と共有したいという気持ちで話したが，同期はそれを仕事の成果での張り合いと捉え，負けまいと己の成果を誇っている。そのため，「私」の嬉しい気持ちは伝わらず，疲労しているのが分かる。このように，「仕事の有能さ」には，相手より仕事ができる，仕事の能力が優れていることをもって，優位性を誇るといった内容が含まれる。

4）苦労

「仕事の有能さ」では，仕事の結果によるマウンティングがみられたが，同じ結果でもそれが得られるプロセスによるマウンティングもみられ，次のような例があげられる。

（仕事で実家の母親に子どもの迎えを頼まざるを得ない「私」をみて，同じく子どもを持つ先輩が）
先輩：「やっぱり実家近いの超得だよね～」（鈴木，2019）

先輩は，「私」が実家に子どものお迎えを頼むことができるのを羨ましがっているようにみえるが，それを受けて「私」は「そこまで腐ってはいないが，不満」と感じている。先輩は，「私」の環境を羨ましがることで，そのような環境にない自分は苦労している，大変であることを暗に伝え，それにより「私」の苦労を過小評価しているといえる。このように，「苦労」には，相手の努力や苦労を過小評価し，自分の大変さを誇るといった内容が含まれる。

5）経済力

男女間での賃金格差は依然として大きい（厚生労働省，2014）が，それに加え，女性間でも職種や雇用形態によって差がある（山本・安井，2016など）ために，マウンティングが発生することがあり，次のような例があげられる。

（高い時計を身につけている「私」）
私：＜チラチラ見せながら＞「これすごく安く買ったんだけど」（瀧波・犬山，2014）

「私」は高いと感じている時計を，「安く買った」と言いながらチラチラと相手に見せている。相手の反応は不明であるが，「私」はその後，電車の中で反省し，落ち込んでいる（瀧波・犬山，2014）。「私」は，時計が高いものであることは，相手にも分かるはずだと認識したうえで，「安い」と伝えることで，自分の経済力や豊かさを誇示しようとする気持ちがあり，それに気づいて反省していると考えられる。このように，「経済力」には，給料や家賃，持ち物など，自身の経済力を表すものを相手に示し，優位性を誇るといった内容が含まれる。

6）独身の自由

手に入れた経済力により，女性は自身の力で自由に生きていくことができるようになるが，そのような自由さをめぐってもマウンティングは，生じる。例えば，次のような例があげられる。

（独身の私が既婚の友人に対し）
独身の私：「いいな，いいな。私なんて全然結婚できなくって，独身生活を謳歌しまくっちゃってま～す」（瀧波・犬山，2014）

「私」は友人の結婚生活を羨ましがっているが，発言の後半では，己の自由な生活を誇示しているようにみえる。相手の反応は不明であるが，「私」

は「自虐しつつ，自慢する」と感じており，結婚していない自分を憐れに見せつつ，結婚していないからこその自由さを強調しているといえる。このように，「独身の自由」には，男に頼らずに生きる独身の身であり，時間や金銭を自由に使えることをもって，主に既婚者に優位性を誇るといった内容が含まれる。

7）海外経験

海外での旅行や体験は，お金も時間もかかるため，自由な時間がないと得にくいものである。海外での経験に関するマウンティングでは，次のような例があげられる。

（海外でバックパッカーの経験をしてきた女性）
女性：「あの経験があって，視野が広がったんだよね」（瀧波・犬山，2014）

この女性は，バックパッカーの経験を経たことで，自分の視野が広がり豊かになったと誇っているようにみえる。相手の反応は不明だが，この女性は，自分のバックパッカーの経験を誇るのみならず，それを経験していない相手は経験値が乏しいと価値を低め，自分の方が立場が上であると誇っているように感じられる。このように，「海外経験」には，海外旅行の経験が豊富であるようにみせたり，海外の文化に精通しているようにみせ，経験値が豊富なことを示し，相手に優位性を誇るといった内容が含まれる。

8）居住地

海外に行かずとも，高い学歴や豊かな経済力により，華やかな都会での暮らしを勝ち取ることができる。そのような居住地をめぐるマウンティングもみられ，次のような例があげられる。

（都会に住む女性が，地元に帰ってきて）
都会女子：「へぇ〜，○○（地元）にもこんなおしゃれな店ができたんだ」（瀧波・犬山，2014）

都会に住む女性が久しぶりに帰省し，地元の変化に興味や関心を持っているようにみえるが，それを受けた地元に住む女性は，「地元だしいいよね感を出された」と感じている（瀧波・犬山，2014）。両者は元々同じ地域に生活していたが，都会に住む女性は，豊かで洗練された環境で生活しているという自負があるため，「こんなおしゃれな店できたんだ」という発言は，地元の環境の変化を過小評価し，見下す気持ちが感じられる。このように，「居住地」には，現在住んでいるところ，あるいは出身地が相手より優れていることをもって，優位性を誇るといった内容が含まれる。

9）趣味・教養

自由な生活を送る女性たちはさらに，趣味などに時間を費やすが，その精通の程度によってもマウンティングが発生することがあり，次のような例があげられる。

（最近は，あるテレビドラマを見るのが楽しみだというA子に対し）
B子：「視聴率とかスゴかったみたいだよね。でも私，テレビ見る時間に意味を見いだせなくて…私は今，みんなでパーッとオカマの店に行くのにハマってるよ」（瀧波・犬山，2014）

B子はA子の趣味であるテレビドラマ鑑賞にはあまり興味がなく，それよりも，ゲイバーなどに遊びに行くほうが楽しいと語っている。それを受けたA子は押し黙り，その後の会話でも口数が少なくなっていた。B子は，テレビドラマ鑑賞に興味がないと語るだけではなく，A子の趣味の価値を低めている。B子は趣味の優劣を知っており，自身の趣味の方が高尚で価値があると，相手に優位性を誇っているといえる。このように，「趣味・教養」には，話のテーマとなっている事柄について，相手より詳しい，知っているように見せかけ，相手に優位性を誇るといった内容が含まれる。

3. ＜女性としての性的魅力を誇示する＞

＜女性としての性的魅力を誇示する＞には，女性としての美しさや魅力によって，マウンティングをするといった内容が含まれる。女性としての性的魅力は，女性性とは独立の概念として捉えられることが多い。例えば，小出（1999）では，「髪を長く伸ばした方が異性からのウケがいいと思う」などの項目は，女性のセックス・アピール尺度とされ，女性性尺度とは別の尺度であるとされている。女性としての性的魅力をアピールすることは，従順さやしとやかさに代表される伝統的な女性役割とは相反するものであるといえる。

また，女性の性的な魅力のアピールは，男性に評価されて初めて有効なものとなるため，性的魅力によるマウンティングには，男性の力を必要とするという特徴もある。これは，パートナーの地位や収入によって，望む社会経済的地位を獲得しようとする間接的勢力志向と類似すると考えられ（麻生・坂元・沼崎，2015），性的魅力のアピールによって獲得することが出来たパートナーの威を借りてマウンティングをしているといえる。

よって，＜女性としての性的魅力を誇示する＞では，己の性的魅力のアピールやそのアピールの仕方，またそれによって獲得したパートナーの力によるマウンティングが含まれ，伝統的な女性役割とは相反するものがみられた。

1）美しさ

＜女性としての性的魅力を誇示する＞におけるマウンティングで，最も多くみられるのは，「美しさ」に関するマウンティングであり，次のような例があげられる。

（すっぴんの女性が，化粧をしている女性たちに向かって）
すっぴんの女性：「あーみんなメイク上手〜！盛ってるね〜！」（瀧波・犬山，2014）

すっぴんの女性は，メイクをしている女性たちを褒めているようにみえるが，それを受けた女性たちは「すっぴんの自分との差をアピールされたような気持ち」になっている。すっぴんの女性は，メイクの仕方を褒めつつも「盛ってる」と付け加えることで，メイクをした女性たちの美しさは偽物であり，メイクをしていない自分の美しさは本物であると誇っているといえる。このように，「美しさ」には，相手よりも身体的特徴が優れている，美しいということをもって，優位性を誇るといったことが含まれる。

2）ファッションセンス

「美しさ」では，身体的特徴の美しさによるマウンティングがみられたが，メイクや服装など，装飾的な魅力によるマウンティングもみられる。例えば，次のような例があげられる。

（メイクが得意な友人たちが，メイクが苦手な「私」をみて）
友人：「も〜！？素材はいいのにもったいない。今度私のお下がりもってくるから変身しよっ！」
私：「あっ…うん…」（瀧波・犬山，2014）

メイクの得意な友人が，メイクが苦手な私の身体的魅力を褒めつつ，メイクや服装のアドバイスをし，装飾的な魅力も高めるよう促している。一方，「私」は困惑しており，あまり気乗りしていない様子である。友人たちは「私」のファッションの価値を低いと決めつけ，自分たちのファッションの方が魅力的であると誇っているといえる。このように，「ファッションセンス」には，服装やメイク，持ち物が相手より優れている，こだわっていることを示し，優位性を誇るといった内容が含まれる。

3）若さ

性的魅力の中で，身体的魅力に類似するものとして，若さによるマウンティングもみられる。次のような例があげられる。

（25歳のシェアメイトが，30歳の私に向かって）
シェアメイト：「私，アラサーだから，もうババアだし。30過ぎての婚活はイタい。美白，保湿も30過ぎたら意味ないし」（ジェーン，2020）

シェアメイトは自身のことをババアと呼び，美容や婚活についても自虐的に話しているが，この自虐の矛先は間接的に「私」にも向けられ，「私」は年上なのに受け止められない自分を情けなく感じている。「お局様」「年増」など年齢を重ねた女性を揶揄する言葉も多く，相手の女性より若いことは，それだけで優位性を誇ることができると考えられる。このように，「若さ」には，相手より若いことをもって，優位性を誇るといった内容が含まれる。

4）モテ経験

女性としての性的魅力をアピールし，男性と性的関係を築くことによるマウンティングもみられる。次のような例があげられる。

（モテる「私」が友人に対して）
私：「＜男性から＞軽くみられてるのかなー」（瀧波・犬山，2014）

男性との交際関係が豊富で，モテる「私」が，男性から自分が軽く見られているのではないかと心配し，相談をしている。相手の反応は不明であるが，「私」は男性にふしだらだと思われているのではないかと心配しているように見せ，自分は男性にとって魅力的であること，そのために多くの男性と性的関係があることを誇り，マウンティングをしているといえる。このように，「モテ経験」では，男性と性的関係を築いた経験が多いと見せかけることで，優位性を誇示するといった内容が含まれる。

5）男性のセンス

性的魅力によって，男性との性的関係を持っていても，男性の容姿や属性の違いによって，マウンティングは生じる。例えば，次のような例があげられる。

（彼氏のいる「私」に対し，友人が）
友人：「＜「私」の彼氏を指して＞イケメンじゃないところが逆にいいよね」（瀧波・犬山，2014）

友人は「私」の彼氏を褒めているようにみえるが，それを受けて「私」は釈然としない気持ちになっている。友人は，「私」の彼氏についてイケメンではないからこそ良いという評価をしており，世間一般のイケメンではない個性的な男性であると受け取ることもできるが，ぱっとしない三枚目の男性であると受け取ることもできる。この例の「私」は，後者であると捉え，自分の彼氏が低く評価され，またその男性を選んだ自分をも低く評価されたように感じたといえる。このように，「男のセンス」には，彼氏や夫の価値を貶めることで，相手に優位性を誇るといった内容が含まれる。

Ⅳ　考察

1．概念図による表現

3つのカテゴリー間の関係を，図1に示す。それぞれのカテゴリーの関係は，ある部分では一方に勝てるが，ある部分では負けるというように，膠着した三すくみの状態にあると考えられる。具体的には，＜伝統的な女性としての地位・能力を誇示する＞女性は，夫と結婚し子どももおり，安定した生活を送っているといえるが，＜自立した人間としての地位・能力を誇示する＞女性からみれば，夫や子どもの存在に縛られ，自由な生活を送れていないともいえる。

こうした状態は，女性役割の3つの側面が連動しない状態にあるために発生していると考える。男性役割の場合は，各側面は連動している。例えば，職業上の成功と達成と，肉体的・精神的強さと独立心（鈴木，1994）は矛盾せず，仕事でいい結果を出しながら，健康的な肉体を手にすること

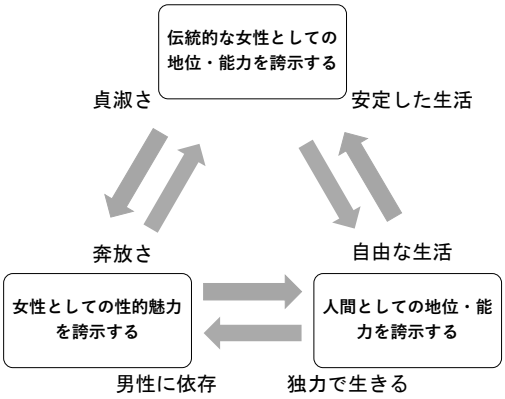

図1　女性のあいだでみられるマウンティングの三すくみ

はできる。そのため，男性のあいだでみられるマウンティングは，シンプルなものになり，すぐに勝負がつくか，あるいはマウンティングそのものが起こりにくいと考えられる。

一方で女性では，3つの側面が連動しないため，競争や格付け争いは複雑化する。例えば，従順な専業主婦であると同時に，バリバリと仕事をこなすことはできないし，1人で生きるのに十分な経済力を身につけつつ，女性としての性的魅力をアピールし，男性の経済力に頼って生きていくことはできない。そのため，ある側面では負けるが，ある側面では勝てるという状況が頻発する。このようなことから，男性同士よりも女性同士におけるマウンティングが多いようにみえるのではないかと考えられる。

2. 女性にとってのマウンティングの体験

女性役割の各側面が矛盾している一方で，1人の女性の中に矛盾する各側面が内在化されているという指摘もある（高林・沼崎，2010など）。例えば，働きながら子育てをするワーキングマザーは，伝統的な女性役割を満たしつつ，伝統的な男性役割も一部満たしている。家庭では，伝統的な女性役割の側面を，職場では伝統的な男性役割の側面をというように，女性たちは，状況に合わせて役割を選んでいるといえるのではないだろうか。実際，ファーストクラス（2014）では，吉成に対して＜人間としての地位・能力を誇示する＞マウンティングに失敗した川島が，次は＜女性としての性的魅力を誇示する＞マウンティングを行う場面がみられる。1つのカテゴリーでのマウンティングがうまくいかなくとも，別のカテゴリーでのマウンティングを行うことができるため，女性同士のあいだでマウンティングが繰り返されてしまうと考えられる。

以上から，女性同士のあいだでみられるマウンティングは，単純に優劣が決定できない三すくみの状態にあり，異なるカテゴリーで次々と行うことができるという特徴を持つため，連綿と続いてしまい，女性の傷つき体験となっていると考えられる。

3. 本研究の限界と今後の展望

最後に，本研究の限界と今後の展望を述べる。本研究では，M-GTA を用いてマウンティングの分類を行ったが，因子分析など量的分析による検討を行い，分類の信頼性や妥当性を確認する必要があると考えられる。

また，マウンティングは，表1の第3条件に示すように，マウンティング被害者の受け取り方に左右される。そのため，同じ言動でもマウンティングと受け取る女性もいれば，マウンティングではないと受け取る女性もいると考えられる。そこで，マウンティングのエピソードを用いて尺度を作成し，女性にそれぞれのエピソードについてどの程度不快に思うかをたずねることで，マウンティングの不快さに基づいた階層表を作ることができると考える。マウンティングの階層表には，多くの女性がマウンティングであると感じるものと，少数の女性がマウンティングであると感じるものが含まれる。多くのエピソードをマウンティングであると感じる女性は，マウンティングに敏感であるといえる。平等主義志向性（鈴木，1999a）

や勢力志向（麻生他，2015）など，マウンティングに関係すると思われる要因を合わせてたずね，マウンティングに敏感な女性の特徴を明らかにすることで，マウンティングによる傷つきの軽減を目指すことができると考える。

文献

Amazon (2017). バチェラー・ジャパン 1

Amazon (2018). バチェラー・ジャパン 2

Amazon (2019). バチェラー・ジャパン 3

麻生 奈央子・坂元 章・沼崎 誠 (2015). ロマンチック幻想の測定：潜在測度との乖離と理想測度 パーソナリティ研究，*23*，156-170.

Crowther, J. H., Sanftner, J., Bonifazi, D.Z.& Shepherd, K.L. (2001). The Role of Daily Hassles in Binge. *International Journal of Eating Disorders*, *29*, 449-454.

フジテレビ (2003). 大奥

フジテレビ (2004). 大奥～第一章～

フジテレビ (2005). 大奥～華の乱～

フジテレビ (2006). 大奥

フジテレビ (2014). ファースト・クラス第 1 期，第 2 期

フジテレビ (2019). 大奥 最終章

後藤 淳子・廣岡 秀一 (2003). 大学生における性役割特性認知語と性役割態度の変化 三重大学教育学部研究紀要，*54*，145-158.

石井 国雄・田仲 由佳 (2019). 男女有職者における女性役割観・男性役割観の検討 清泉女学院大学人間学部研究紀要，*16*，1-11.

伊藤 裕子 (1978). 性役割の評価に関する研究 教育心理学研究，*26*，1-11.

ジェーン・スー (2020). 女のお悩み動物園 小学館

木下 康仁 (2003). グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 弘文堂

小出 寧 (1999). ジェンダー・パーソナリティ・スケールの作成 実験社会心理学研究，*39*，41-52

厚生労働省 (2014). 男女間の賃金格差解消のためのガイドライン

Lazarus, R., & Folkman, S. (1984). *Stress, Appraisal, and Coping*. New York: Springer.

松村 明・三省堂編集所 (編) (2019). 大辞林第四版 三省堂

McIntosh, E., Gillanders, D., & Rodgers, S. (2010). Rumination, Goal Linking, Daily Hassles and Life Events in Major Depression. *Clinical Psychology and Psychotherapy Clin.*, *17*, 33-43.

水希 (2020). 自分を傷つけずに不毛なマウンティングをかわす力 KADOKAWA

水島 広子 (2014). 整理整頓女性の人間関係 サンクチュアリ出版

妙木 忍 (2009). 女性同士の争いはなぜ起こるのか――主婦論争の誕生と終焉――，青土社

内閣府 (2019). 男女共同参画社会に関する世論調査

白河 桃子 (2013). 格付けしあう女たち――「女子カースト」の実態―― ポプラ社

Schopenhauer, A. (1968). 女について（石井 正・石井 立, Trans）日本：角川文庫, (Original work published 1952)

鈴木 淳子 (1994a). 平等主義的性役割態度スケール短縮版(SRSRA-S)の作成 心理学研究，*65*，34-41.

鈴木 淳子 (1994b). 脱男性役割態度スケール(SARLM)の作成 心理学研究，*64*，451-459.

鈴木 涼美 (2015). すべてを手に入れたってしあわせなわけじゃない，マガジンハウス

高林 久美子・沼崎 誠・小野 滋・石井 国雄 (2006). 女性は女性に対して偏見を示すか？：活性化した自己表象が女性への評価とステレオタイプ化に及ぼす効果 平成 15～17 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)：15530402)研究成果報告書「潜在的性役割的偏見の発言とジェンダー・ステレオタイプの受容における心理過程の検討」，111-123.

高林 久美子・沼崎 誠 (2010). 女性による伝統的女性と非伝統的女性への偏見とステレオタイプの適用：潜在レベルからの検討 社会心理学研究，*26*，141-150.

高井 範子・岡野 孝司 (2009). ジェンダー意識に関する検討：男性性・女性性を中心にして 太成学院大学紀要，*11*，61-73.

瀧波 ユカリ・犬山 紙子 (2014). 女は笑顔で殴り合う――マウンティング女子の実態―― 筑摩書房

多喜 弘文 (2019). 既婚女性の就業選択と専門学校歴：就業構造基本調査の世帯情報を用いた検討 社会科学研究，*70*，31-49.

外山 美樹・桜井 茂男 (1999). 大学生における日常的出来事と健康状態の関係：ポジティブな日常的出来事の影響を中心に 教育心理学研究，*47*，374-382.

富山 由紀子 (2011). 安野モヨコ作品における労働の問題系 早稲田大学大学院研究科紀要，*57*，183-196.

渡辺 洋子 (2016). 男女の家事時間の差はなぜ大きいままなのか：2015 年国民生活時間調査の結果から 放送研究と調査，*66*，50-63.

山根 律子・別井 春香・宮内 萌 (2018). 青年期女子の性役割観における『保守化』現象の再検討 II：青年期男子・父母世代・祖父母世代の比較から 青山心理学研究，*18*，19-27.

山本 耕平・安井 大輔 (2016). 大卒女性における専攻間賃金格差の分析：理工系出身女性の賃金抑制要因に注目して ソシオロジ，*61*，63-81.